



JForest 群馬県森連時報

vol.499

【発行所】
群馬県森林組合連合会
前橋市上大島町182-20
TEL.027(261)0615(代)

【制作・印刷】
株式会社総合PR
前橋市元総社町936-4
TEL.027(253)8331(代)

INDEX

新年のごあいさつ	1~5	地元産SGEC森林認証材活用 谷川岳インフォメーションセンター オープン	7
群馬県森林組合連合会 代表理事会長 八木原 勇治	1	吾妻森林組合 林野庁長官賞を受賞 全国森林組合大会	8
群馬県知事 山本 一太	2	土谷隆廣氏(吾妻森林組合) 瑞宝単光章 受章	9
群馬県環境森林部長 岩瀬 春男	2~3	「森林の仕事ガイドンス」東京&群馬で開催	9
関東森林管理局長 赤崎 暢彦	3	優良素材展示会	10
全国森林組合連合会 代表理事会長 中崎 和久	4	木材SCMシステム 導入	11
農林中央金庫 前橋支店長 波多 信宏	4~5	群馬県初!川浦山御用木御伐出絵図 日本森林学会の林業遺産に認定	12
森林組合長・参事会議 開催	5	あとがき	12
令和3年度 人材育成・定着支援研修 開催	6~7		

新年のごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。

平素は本会運営にご理解ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年はコロナ禍の影響により林業・木材産業界においても木材需給等に大きな変動があり森林組合系統の経営活動にも大きな影響が生じましたが、系統事業の推進につきましては多くの皆様にご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このような状況の中、昨年4月より森林組合法が改正され、多様な連携手法、正組合員資格の拡大、業務執行体制の強化策等が講じられ森林組合系統の経営基盤強化が図れるようになりました。また、今年度策定された群馬県森林・林業基本計画では「自立した林業・木材産業」の実現を目指すほか「ぐんま5つのゼロ宣言」にもある「自然災害による死者ゼロ」や「温室効果ガス排出量ゼロ」などの森林・林業分野については森林組合系統として取組んで参ります。

そして昨年10月に行われた全国森林組合大会において新たな

群馬県森林組合連合会
代表理事会長 八木原 勇治

森林組合系統運動「JForestビジョン2030」が決議され、「地域森林の適切な利用・保全と林業経営の更なる発展に向けて」をスローガンに、組合員サービスの向上、働く人の所得向上・就業環境改善、事業拡大・効率化による経営の安定を目標に掲げ、①都道府県・市町村と連携した地域森林管理体制の確立、②循環型林業の確立と系統の木材販売力の強化、③高度人材の確保・育成、④協同組合として組合員に信頼される組織体制の確立、⑤国民生活及びSDGsへの貢献を課題に地域の実情を踏まえ10年後の夢・目指す姿を描き、各森林組合における運動方針策定と、その目標達成に向け取組を進めていただくこととなります。

こうした中、県森連としましてもコロナ禍におけるウッドショックによる木材価格の高騰や、森林環境譲与税及び森林経営管理制度の有効活用など森林・林業への関心が高まり、林業界にとっては追い風となっておりますので、森林組合系統の力を十分に発揮できるよう組織体制の整備・強化を努めて参ります。

終わりに、このコロナ禍が一日も早く終息し、皆様の今年一年のご健勝ご多幸をお祈りするとともに、森林組合系統事業の推進に格別なるご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。本年も宜しく願い申し上げます。

新年のごあいさつ



明けましておめでとうございます。

群馬県森林組合連合会の皆さまには、心新たに輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症への対応につきまして、多大なご尽力をいただいている医療関係者の皆さま、また、感染拡大防止や社会経済活動の回復に向けてご協力をいただいております全ての皆さまに深く感謝申し上げます。

昨年は、感染症から県民の皆さまの命と健康を守るため、保健所や医療提供体制の強化をはじめ、県営大規模ワクチン接種センターをいち早く立ち上げ、各市町村とも連携し全国トップクラスのスピードでワクチン接種を進めるなど、さまざまな対策に全力で取り組んでまいりました。

コロナ対策は長期戦となります。引き続き、県民ならびに事業者の皆さまのご理解とご協力をいただき、力を合わせ、感染防止と地域経済を回していくという、この2つを両立できるように、油断することなく、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

群馬県知事 山本 一太

本年は、新・総合計画ビジョンで掲げた20年後の本県が目指す姿「すべての県民が、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる社会」を実現するための取り組みをさらに加速させ、新たなチャレンジの年にしていきたいと考えています。

新たな時代を切り拓く「始動人」を育成し、群馬ならではの新しい学びを推進する教育イノベーション、災害やパンデミックに強い群馬の構築に注力していきます。また、県民の皆さまの利便性を高め、地域が直面している問題を解決するため、デジタル化の取り組みを加速化していきます。

森林・林業分野においては、「群馬県森林・林業基本計画2021-2030」を着実に推進し、大胆な構造改革と産業基盤の強化により高コスト体質からの脱却と収益性の向上を図り、「自立した林業・木材産業」の実現を目指します。さらに、2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」を実現するための取り組みを強力に推進します。

群馬県森林組合連合会の皆さまには、引き続き県政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が実り多き素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

群馬県環境森林部長 岩瀬 春男

で掲げた20年後の本県が目指す姿「誰一人取り残さない自立分散型の社会」を実現するための取組を果敢に進めています。

本県は、木材の大消費地である東京圏に近く、関東一の森林面積を持ち、森林資源が充実しているなど高いポテンシャルを有しています。

このポテンシャルを120%発揮させ、飛躍に向けた推進力を確かなものにするため、「群馬県森林・林業基本計画2021-2030」を着実に推進し、大胆な構造改革と産業基盤の強化により高コスト体質からの脱却と収益性の向上を図り、「自立した林業・木材産業」の実現を目指します。

また、「自然災害による死者ゼロ」「温室効果ガス排出量

新年のごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。

群馬県森林組合連合会の皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックから早くも2年

が経過しました。同じく地球規模の課題である気候危機に対応するため、世界中で急速な経済社会の改革が進められています。

このような状況の中、「新・群馬県総合計画(ビジョン)」

ゼロ」など、2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」を実現するため、林業経営を通じた森林整備やぐんま緑の県民基金事業等の公的森林整備により、森林の持つ公益的機能の維持・増進を図り、災害に強く、持続可能な社会を構築します。

本年は、新たな森林組合系統運動方針となる「JForestビジョン2030」の策定の年です。地域森林の適切な利用・保全と林業経営の更なる発展のため、森林・林業の中心的担い手

新年のごあいさつ



新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶申し上げます。

群馬県森林組合連合会並びに会員の皆様には、日頃より、国有林野事業の円滑な運営にご理解・ご協力をいただいております。心より御礼申し上げます。

また、森林経営計画の作成、森林施業の低コスト化、路網の計画的な整備等に積極的に取組まれ、民有林における森林施業の集約化を図るとともに、群馬県の林業、木材産業の発展にご尽力されておられますことに対し、心より敬意を表します。

昨年は新型コロナウイルス感染症の流行により、経済活動にも大きな影響を受けましたが、林業、木材産業界においては、コロナウイルス感染症の拡大による海外産地での木材生産や流通の停滞、アメリカにおける住宅需要の高まり等を背景として木材輸入が減少し、価格が上昇するいわゆるウッドショックが起り、国産材に関心が集まるといった状況が発生しました。

秋以降には市場価格は高止まりながら、荷動きなども落ち着きを見せており、一時のようなひっ迫感はありませんでしたが、引き続き海外産地や海外の消費市場、国内の状況を注視していく必要

である森林組合系統の事業活動がさらに積極的に展開されることを期待しています。

県といたしましても、本県の林業・木材産業の発展のため全力で取り組んでまいりますので、引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合連合会のますますの御発展と皆様方の御健勝を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

関東森林管理局長 赤崎 暢彦

があります。

そうした中、6月には、「森林・林業基本計画」が閣議決定され、林業木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、2050年のカーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現を目指すとの方針が示されました。また、10月には、公共建築物等木材利用促進法が「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」として改正施行され、木材利用促進の対象が一般建築物にまで拡大されています。

このように、昨年は林業、木材産業界にとって大きな影響を受けるとともに転機となる一年となりました。

本年も、林業を取巻く課題は多く、未だ感染症の終息時期や最終的な影響は見通せない状況にあります。関東森林管理局では、国民共通の財産である国有林野を適切に管理経営するとともに、林業を成長産業化の軌道に乗せるため、基本計画が目指す伐採から再造林・育林に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」に向け積極的に取り組んでまいります。また、木材産業の体力強化と経営安定のため皆様方はじめ業界の関係者、地域の皆様の声に耳を傾け、適時・適切な木材の供給に努めて参りますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合連合会並びに系統森林組合の益々のご発展と皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げます。

森林に優しい
チェーンソー
専用オイル



植物油生分解性オイル
YSバイオ
チェーンオイル
特許 第3513132号



服に付いた油汚れが洗剤で落とせる抜群のスベリでチェンやバーの摩擦を防ぐ
荷姿/4Lポリ・18L缶(オールシーズンタイプ) ※エンジンオイル・食用油としては、使用できません。

新年のごあいさつ



全国森林組合連合会
代表理事会長 中崎 和久

令和4年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、弊会の業務運営につきまして特段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、一昨年来猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症は、ワクチン接種の進展をはじめ感染防止対策が講じられておりますが、引き続き慎重な対応が求められております。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、医療関係者のご尽力に敬意を表します。

また、コロナ禍で混迷する経済情勢や世界的な木材需給の変動など、森林組合システムの経営環境にも大きな影響が生じているところですが、事業活動継続にご支援、ご尽力いただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、森林・林業を取り巻く情勢は、昨年6月に新たな「森林・林業基本計画」が閣議決定され、森林・林業・木材産業のグリーン成長と2050年のカーボンニュートラル達成を踏まえた豊かな社会経済の実現を目指す方針が示されました。

また、「公共建築物等木材利用促進法」が「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」へ改正され、木材利用の促進対象が公共建築物から民間建築物へと拡大されています。

こうした諸施策が講じられ、森林環境譲与税の活用や森林経

営管理制度が推進される一方、林業の成長産業化の実現に向けては、生産基盤である路網整備の推進やスマート林業の導入等が必要であり、「緑の雇用」事業の拡充等による人材の確保・定着も進めていかなければなりません。

また、昨年4月に施行された改正森林組合法では、組合間の多様な連携や正組合員資格の拡大、事業執行体制の強化等が措置されており、新たな仕組みを活用しながら経営基盤の強化を図ることとしています。

これに対し、森林組合システムは、昨年10月28日に、第29回全国森林組合大会を開催し、新森林組合システム運動「JForestビジョン2030」を決議いたしました。

本運動では、地域森林の適切な利用・保全と林業経営の更なる発展に向け、組合員サービスの向上、働く人の所得向上と就業環境改善、事業拡大と効率化による経営の安定を目指すこととしており、この達成に向け、①都道府県・市町村と連携した地域森林管理体制の確立、②循環型林業の確立と系統の木材販売力の強化、③高度人材の確保・育成、④協同組合として組合員に信頼される組織体制の確立、⑤国民生活及びSDGsへの貢献を加速させて参ります。

協同の力による積極的な運動推進により、国民、組合員の期待に応える組織体制を構築する所存であり、引き続き森林組合システムへのご指導、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、コロナ禍が一刻も早く終息し、本年が皆様にとり幸多き一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年のごあいさつ



農林中央金庫
前橋支店長 波多 信宏

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。群馬県森林組合システム役職員の皆様には、日頃より、森林・林業および森林組合システムの発展のために格別のご尽力をいただいておりますことに対し、心より敬意を表する次第であります。ま

た、私も農林中央金庫の業務につきましても、平素より格別のご理解・ご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

昨年は、コロナ禍の影響が継続し、木材需要の減少も見られた一方で、ウッドショックと呼ばれる木材の世界的な供給不足と価格高騰が発生し、国産材への注目が高まりました。また、政府による「2050年カーボンニュートラル」目標の宣言(2020年10月)を受け、企業経営においてもSDGsへの寄与が現実的に意識され始める中で、企業側が森林・林業との結び付きを強化しようとする動きも目

立っています。

こうしたなか弊庫では、2030年中長期目標として、「農林中央金庫投資先等のGHG排出量削減▲50%(2013年対比)」を掲げております。この目標達成には森林の多面的機能の発揮や森林資源の有効活用が不可欠であり、森林組合システムと連携した森林由来のCO₂吸収に取り組む必要があります。弊庫では、森林組合システムの組織力強化、並びに持続的な森林・林業経営に向けた支援の一環といたしまして、各種研修会の実施や農中森力基金による民有林の再生、労働安全装備品の購入費用助成等を実施しているところ。また国産材利用拡大に向けた活動として、2022年2月に群馬県内の感染症指定医療機関へ木製消毒スタンドを

寄贈する予定です。

なお昨年2月より、弊庫では群馬県域における森林関連業務の担当部署を、関東業務部から前橋支店に移管いたしました。2007年以前は前橋支店で担当しておりましたので、所管を再び戻した形となります。地元群馬において、少しでも多くの現場に足を運び、微力ながら森林組合システムの取組みをサポートさせていただければと存じますので、今後ともこれまで同様ご厚誼を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合システムの益々のご発展と、皆様の一層のご健勝・ご活躍を心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

森林組合長・参事会議 開催

去る、11月29日に「森林組合長・参事会議」を前橋市の群馬県勤労福祉センターにおいて総勢45名の出席で開催した。

開会冒頭の県森連八木原会長の挨拶では10月に行われた全国森林組合大会において林野庁長官表彰を受賞した吾妻森林組合の紹介や、同大会で決議された新たな森林組合システム運動「JForestビジョン2030」の運動方針等について述べた。

議題の一番では、県森連渋川県産材センター 田村所長が「ウッドショック下の木材需要の現状と県産材販売流通」と題し、コロナ禍で急騰している全国及び県内の木材製品や素材価格の推移と木材販売流通の現況について説明し、製材工場等の需要に対し供給が追いついていない状況であり、あらためて各森林組合へ林産事業の強化をお願いした。また、県森連 高橋指導部長より以前から試行的に進めてきた木材SCMシステムの導入について説明があった。山土場での検知野帳のクラウドシステム入力から買受精算書・売上請求書等の自動作成がされるもので、販売管理業務の大幅軽減と効率化に繋がるスマート生産販売管理の実現を目指して行く。

続いて県森連指導課 山田課長より今年度からスタートした森林組合システム運動「JForestビジョン2030」について説明があり、新たなシステム運動では森林環境譲与税や森林経営管理制度等の活

用や森林組合法改正による新たな連携手法及びSDGsへの貢献などの基本方針を踏まえ、10年後の夢・目指す姿を描き、各森林組合において地域や組織の実情を踏まえた運動方針策定と、その達成に向けた取組を進めて行く。また県内各森林組合の運動方針策定を年度内を予定とし、県森連では2月上旬に各組合の運動方針策定の進捗確認や意見交換等を行う会議の開催を予定している。

続いて群馬県林政課経営管理室 折田室長より「森林・林業基本計画と森林経営管理制度について」と題し、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」をはじめとする基本方針や計画目標のほか、森林経営管理制度による期待と効果等について説明があり、各市町村による地域の森林管理が円滑に進むようサポートして行くこと説明があった。

会議最後の議題では、群馬県林業振興課経営強化係 新井補佐より「森林組合法の一部改正」と題し、業務執行体制の強化として実践的能力理事の配置の考え方について説明があり、販売事業に精通している者や経営に関するノウハウのある者等を位置づけるものとしており、令和6年度の総会(総代会)終了時までの配置が義務付けられていることから、各森林組合において役員改選時期を考慮し実践的能力理事を配置するよう説明があった。また、会社法改正に伴う改正として理事等の責任追及に係る訴訟における和解に係る規程の整備等についても説明があり会議を閉会した。



▲群馬県林政課経営管理室 折田室長



▲組合長・参事会議

令和3年度 人材育成・定着支援研修 開催

今年度も昨年度と同様に、『雇用主・雇用管理者向け研修』及び『OJT指導者研修』の2種が前者は10月19日(火)の半日、後者は10月20日～22日、11月10日～12日の計6日間で開催された。過去のOJT指導者研修は4日間での研修期間で行われていたが、研修内容の充実を図るため今年度から6日間での実施となった。本研修は林業事業体の雇用主、雇用管理者や林業作業現場でのOJT指導者を対象としており、事業体に雇用されている新規就業者や若手現場技能者が能力を最大限に発揮し、やりがいや将来への期待をもって働けるよう、人材育成に関するスキルを学び意識改革することで、将来を担う現場技能者が誇りをもって働くことが出来る人材育成を内容としている研修である。またWoodsman Workshop LLC代表の水野雅夫氏を講師としてお迎えするもの今年度で5年目を迎え、過去に受講いただいた方から高評価を多くいただいている研修である。



▲水野講師

【雇用主・雇用管理者向け研修】

県内認定事業体から13事業体、受講者17名で群馬県生涯学習センターにて開催された。群馬県内の労災現況や労災減少に向けた対策方法、経営者の安全衛生に対する意識改善の必要性などの内容が講演された。受講者からのアンケート調査回答では、『心に響いた研修だった』『もっと話を聞きたかった』など好感度の意見が多かったが、厳しい意見も一部見受けられた。

【OJT指導者研修】

今回の研修も、講師である水野氏が開発企画に携わり考案された『伐倒練習機 Felling Trainer MTW-01』を活用して研修が実施された。今年度は5事業体5名の参加で行われた。6日間の研修内容は以下の通りである。

《研修1日目》

「労災について知る」、「指導者の役割と責任」、「現場指導の留意点」などのテーマについて講師から講義があり、労災に関する動画映像を見ながらリスクアセスメント実施、また新規就業者を想定とした、チェーンソー伐倒の際の「受け口と追い口による伐倒の図解」説明発表など行われ、研修生は『頭では理解しているのに言葉と図による説明は難しい』などと苦慮

していた。

午後には伐倒練習機を活用して、チェーンソー作業での受け口作成を『指矩(さしがね)』『レーザーポインター』『タブレット端末』の3つの道具を使って、現時点での研修生全員の技術レベル確認を行った。残念ながら今年度も、伐倒目標への受け口作成の精度が高い研修生は1人もいなかった。

《研修2日目》

1日目の実習では伐倒目標を定めて、受け口を作成することを内容としていたが、この作業の前段階で必要な7つのステップ(技術力)を養うための実習が行われた。内容は以下のとおりである。

- ①立木に見立てた丸太を水平にスライスしてガイドバーの先下がり(先上がり)及び進行方向への勾配角を測り、それぞれの角度を0度に近づける。
- ②受け口の斜め切りを想定しながら切り下げ、ガイドバーの先が上がったり下がったりせず水平に切り終わらせるようにする。
- ③水平に10cm程度切り込んだガイドバーをスムーズに入れられるようにすることでブレない安定したフォームを身に付ける。
- ④斜めに10cm程度切り込んで、③と同様に出し入れし横方向へのフォームのブレを修正する。
- ⑤指定された深さまで水平に切り込み、イメージした切削量と実際の切削量が一致するようになるまで反復する。
- ⑥⑤の斜めの場合
- ⑦折れ曲がり線(会合線)を作る準備作業として、指矩をガタつきがないようにあてられる「目安の線」を丸太直径の1/8程度の深さに作る。



▲新人への指導

《研修3日目》

「どのように指導するのか?」、「コミュニケーション」、「コーチングマジック」など、より具体的な新規就業者への対応手法等の講義が行われその後、ワークショップ『作業の分解と再構築』(切り捨て間伐編)がスタートした。

このワークショップは切り捨て間伐の一連の作業を個人毎に1つ1つ詳細に分解し、その分解された考えや動作を時系列に並び替え、研修生全員の合意形成を図り1つにまとめてマニュアル化していく作業である。

《研修4日目》

研修3日目に宿題としてお願いした、日本森林技術協会発行『森林技術』掲載記事を読んだ感想発表と意見交換が行われた。またその後には3日目のワークショップの続きが行われ、個人毎の作業洗い出しの【選木】まで進められた。

《研修5日目》

引き続き前日からのワークショップを再開し、作業内容の整理や個々の作業順番など個人個人の意見が出されて合意形成を図るために時間が費やされた。

午後には『新人へのチェーンソーワーク指導』と題してして研修生1人1人が新人役への具体的なアプローチが実践して行われた。研修生全員に共通して『言葉にして伝える』ことに苦

労していたようである。

《研修最終日》

ワークショップの最終仕上げとして作業が進められ、チェーンソーワークである受け口・追い口作成作業を除いた切り捨て間伐一連の流れを模造紙内で表現することができた。さらに個々に抽出された作業での重要度を研修生でランキング付けし、これらが行われたときと行われなかったときのメリットとデメリットを考え、最終的には新人へのOJT指導の必要性や重大性など話し合われて研修は終了した。



▲ワークショップ

地元産SGEC森林認証材活用 谷川岳インフォメーションセンター オープン

谷川岳インフォメーションセンター(みなかみ町)は、谷川岳周辺の地形・地質、そこで見られる高山植物や昆虫等の動植物、登山ルート情報等の展示パネルやプロジェクトマップや自然体験アクティビティの疑似体験VR等で谷川岳の魅力を広く発信する施設として環境省により整備され令和3年6月にオープンした。

このインフォメーションセンターは地元産原木によるカラマツ集成材を構造材にふんだんに使用したつくりとなっているが、設計段階での地元産材の供給オファーに対し、SGEC森林認証材の提供を利根沼田森林組合と県森連で提案し実現したものである。利根沼田森林組合のSGEC認証森林から伐出されたカラマツ原木を県森連が買取り、長野県の加工工場に納め、カラマツ集成材に加工され建築材として戻り活用された。

館内にはこの地元産SGEC森林認証材の提供・活用に関するポスターを展示いただいております、エコツーリズムの推進や環境学習の場としてのインフォメーションセンターと親和性の高い我々のSGEC森林認証の取組をはじめ、SDGsの実践そのものである森林組合事業についてPRしている。



▲谷川岳インフォメーションセンター



▲センター内観 SGEC認証材PR

吾妻森林組合 林野庁長官賞を受賞 全国森林組合大会

第29回全国森林組合大会が10月28日に東京浜松町のホテルメルパルク東京において開催された。昨年全国森林組合大会はコロナ禍によりこの開催が見送られたが、今回は新型コロナウイルス感染対策を考慮し、招集者を極めて絞り全国の系統から約120人の参加となった。

大会における表彰では、優良組合表彰としての林野庁長官表彰(全国4組合)を吾妻森林組合が受賞され、同組合有馬嘉太郎代表理事組合長が壇上で長官よりこの表彰状を授与された。同組合では系統運動「JForest森林・林業・山村未来創造運動」の取組として素材生産量を2万8千㎡に拡大し、主伐がこの4割以上を占め年間30haの再造林事業も展開し、低質材活用として燃料用チップ加工生産量も年間13,500トンとなっていることに加え、現業職員の所得改善や技術力向上と労働安全対策への取組徹底等が評価された。

この他の本会系統表彰者は下記のとおり。(敬称略)

●功労者表彰(永年勤続)

(役員)

鐺川東部森林組合 代表理事組合長 桐生功

(職員)

吾妻森林組合 長谷川英律、小板橋優紀

鐺川東部森林組合 小井土和代

群馬県森林組合連合会 須藤智亮

(現場技能者)

上野村森林組合 菅原大樹、武田誠、川口純

吾妻森林組合 篠原直哉

桐生広域森林組合 鈴木秀典

受賞された皆様、たいへんおめでとうございます。

また大会では新森林組合系統運動方針の策定と、提案事項「森林組合によるSDGs達成に向けた取組」「森林整備のための財源確保について」が決議された後に、今回の大会決議が次のとおり決議された。



▲第29回全国森林組合大会

大会決議

戦後造成された人工林が成熟期を迎える中、森林資源の循環利用を進め、林業の成長産業化を図り、山村地域に活力を取り戻すことが期待されている。

また、局地的豪雨による産地災害の多発や2050年カーボンニュートラル実現など、国土保全や二酸化炭素吸収源として、森林の公益的機能の発揮が強く求められている。

このため、森林組合法や間伐等特措法、木材利用促進法等の改正・制定とともに、民放・不動産登記法が改正されるなど、森林管理・林業成長産業化に資する新たな仕組みが整備された。

このような諸制度の改革に対応し、新たな森林組合系統運動「JForestビジョン2030」の下、我々系統はこれまで培ってきた技術と能力を発揮し、国民の信頼に応えなければならない。

本日、全国森林組合大会を開催し、150万組合員が協同の力を集結して、下記事項の実現に取り組んでいく。

記

1. 主伐後の再造林の確実な実施を通じた森林資源の循環利用の推進と林業経営確立のための取組強化、国土保全等森林の公益的機能の発揮に必要な森林整備予算の大幅な拡充
2. 技能検定制度創設等労働安全対策推進や就業環境改善とともに「緑の雇用」事業、森林施業プランナー育成対策事業等による人材の確保・育成
3. 国産材の新たな需要を創出するとともに都市の木造化や輸出推進等による木材需要の拡大

以上、決議する。

令和3年10月28日
全国森林組合大会



▲林野庁長官表彰 吾妻森林組合 有馬組合長

土谷隆廣氏(吾妻森林組合) 瑞宝単光章 受章

令和3年秋の叙勲で、吾妻森林組合造林班総括班長の土谷隆廣氏が瑞宝単光章を受章された。

これは氏の長年にわたる現場作業における生産性向上と労働負荷低減や徹底した労働安全の推進、後継者育成や地域森林保全への取組等が高く評価されたものであり、県内森林組合現場職員としての叙勲受賞は初の事例である。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本来、農林水産省で執り行われる伝達式にかわり、12月17日群馬県林業振興課長から同森林組合事務所会議室において勲記・勲章が伝達された。

誠にありがとうございました。



▲瑞宝単光章受章 土谷隆廣氏

「森林の仕事ガイダンス」東京&群馬で開催

去る11月13日(土)に東京都千代田区丸の内での東京国際フォーラムにおいて、森林や林業に興味のある方や林業就業希望者等を対象とし、森林・林業に関する情報提供などを目的とした「森林の仕事ガイダンス」を全国森林組合連合会の主催で開催した。

今回のガイダンスも昨年同様に新型コロナウイルス感染防止対策として来場者の事前予約制や、来場者の入替えなど、様々な感染防止対策を図り実施した。このガイダンスでは全国森林組合連合会をはじめ各都道府県の相談ブースを設け、各地の林業に関する情報や就業までの道のりについての説明と相談などが行われた。

群馬県ブースを訪れた来場者には、「緑の雇用事業」の内容や群馬県の森林・林業の現状のほか、林業体験ができる「ぐんま林業就業支援研修」等のPRを行った。来場者の中には群馬県内への移住を考えている方もおり、移住後の生活環境や移住支援、就業状況などの相談もあった。

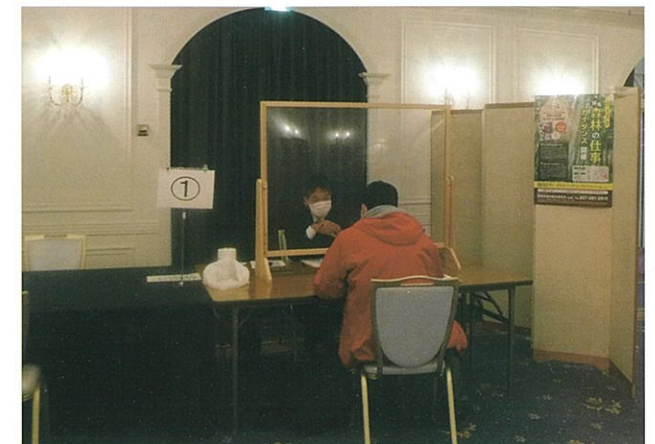
また、12月4日(土)には前橋市古市町のホテルラシーネ新前橋を会場に、本会主催により「群馬森林の仕事ガイダンス」を開催した。この群馬県開催においても、東京ガイダンス同様に感染防止対策を図り実施した。このガイダンスでは群馬県林業振興課、林業労働力確保支援センターの協力のもと、来場者の対応にあたり、群馬県の森林・林業の現状や各種事業・研修会についての説明のほか、就業前に林業を体験することで適正を見極められる、「ぐんま林業就業支援研修」の内容説明や来場者からの就業に関する相談に応じた。

来場者からは「高年齢や未経験者でも林業に就業できるか」、「ぐんま林業就業支援研修の参加も含めて林業就業を検討したい」などの声が寄せられた。

今回の来場者の中には、サービス業や営業職の方などが多く、コロナ禍の影響が少なからずあるように感じた。また、熱心な来場者が多かったことを受け、今後の新規林業就業者の増加に期待したい。



▲東京ガイダンス



▲群馬ガイダンス

優良素材展示会

去る12月1日(水)に恒例となっている群馬県優良素材展示会が前橋木材共販所で開催された。

今回はスギ、ヒノキ、カラマツ計29点が出品され事前に行われた審査会の結果、赤城南麓森林組出品のスギ4m、38~42cmが最優秀賞(林野庁長官賞、群馬県知事賞)に輝いた。

午前中に表彰式が行われ午後には開催された市では入賞した素材を中心に軒並み高値で落札された。

入賞者及び出品材は以下のとおりである。(敬称略)



▲林野庁長官賞・群馬県知事賞 赤城南麓森林組合



▲群馬県知事賞 碓氷川森林組合

◇最優秀賞

(林野庁長官賞・群馬県知事賞) 赤城南麓森林組合
(群馬県知事賞) 碓氷川森林組合

◇優秀賞(関東森林管理局長賞)

下仁田町森林組合
渋川広域森林組合

◇優良賞(群馬県森林組合連合会長賞)

高崎市上下水道事業管理者
黒澤 眞澄
吾妻森林組合

◇技能賞(群馬県木材組合連合会長賞)

わたらせ森林組合
桐生広域森林組合
佳純林業株式会社

◇努力賞(群馬県林業改良普及協会会長賞)

利根沼田森林組合
高橋 茂人
南牧村森林組合



▲最優秀賞 スギ4.00m(径級38~42cm)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの木製ピンバッジご購入のご相談をお受けしております



SDGs(持続可能な開発目標)とは?

SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の頭文字から生まれた造語です。2015年の国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な開発目標として17のゴールと169のターゲットから構成されています。

木材SCMシステム 導入

県森連ではこれまでに「スマート林業構築コンソーシアム事業」への参画(2016年~2018年)や、「群馬型木材生産システム実証事業」(2019年)の受託等により、本県内におけるICTスマート林業の実践について検討してきましたが、今年度クラウドシステムとしての木材SCM(サプライチェーンマネジメント)システムの導入を決定し、現在このシステム内容詳細の検討・決定等構築を進めています。

この木材SCMシステムの特徴は、

- ① 県森連が管理するクラウドシステムに明示される注文に対し、各森林組合からログインし素材生産計画や生産実績(山土場野帳)を入力することで情報を共有できる。
- ② 森林組合で一度入力する野帳データ(施業地・所有者・販売先・樹種・材長・径級・規格・数量)がデジタルデータとして活用され、素材買受精算書や売上請求書、施業地所有者別販売実績等が自動作成できる。
- ③ 森林組合の木材売上の所有者別管理・精算事務及び直接

販売業務の効率化推進

- ④ 今後の木材取扱量増大(数量・販売先・出荷者)にも管理人員を増やさず対応可能に
- ⑤ 共有クラウド内での書類確認によりペーパーレス化や精算書・請求書等のオンライン発行を助長等があげられます。

県森連としては、今後さらなる増大をめざす県内素材生産量に対応するために、県産木材の流通販売改革を進めこの機能を高めていく方針であり、今まで以上に各森林組合の素材生産情報と需要者ニーズとの需給マッチングを強化していくことを課題としています。

今回、導入予定のこの木材SCMシステムはまさにこの流通販売業務をサポートするツールであり、時代の要請である林業分野におけるICT、DXの先駆的実践にもなりえると考えております。そしてこの木材SCMシステムについては、とりわけ各森林組合担当者の方の活用、則ち素材生産計画とその生産情報としての山土場検知野帳データ入力が必要となりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。またシステム構築にあたっては森林組合担当者の皆様の意見もどうか、利便性向上に反映したいと存じますのであわせてよろしくお願いいたします。

木材SCMクラウドシステム スマート生産販売管理 全体図



かわうらやまごようぼくおきりだしえず
群馬県初! 川浦山御用木御伐出絵図
日本森林学会の林業遺産に認定

『川浦山御用木御伐出絵図』が、令和3年5月24日に、一般社団法人 日本森林学会から群馬県では初めて林業遺産に登録されました。

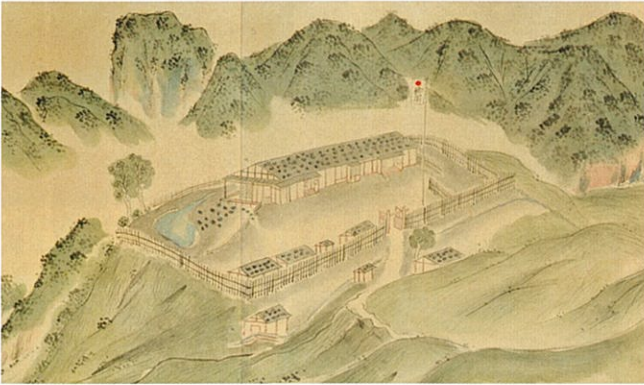
林業遺産認定に至った経緯として、烏川流域森林組合 市川平治組合長が絵図に関する資料を収集し、貴重な地域文化遺産との認識があったことにより、その価値を再認識することを目的として吾妻環境森林事務所 小島経営管理専門官と共同で登録申請が行われた。

本絵図は、幅約30cm、長さ約10mの色彩画の長巻絵図であり、江戸城再建のため、天保5(1834)年からの用材供出という一大事業において、川浦山御林(幕府直轄林)でのケヤキ大木

の伐採から、河川利用(烏川)による搬出という一連の流れが詳細に記録された大変貴重な資料である。伐採事業を監督指揮する「御会所(ごかいしょ)」、「伐倒」、「造材」、「材木吊り下ろし」、「栈手(さで)による搬出」、「堰出し」「管流し(くだながし)」などの情景が、彩色豊かにかつ丁寧に描き込まれており、当時の状況を克明に伝える作品である。(図参照)烏川に流された用材はその後、群馬県高崎市新町に送られ、そこから筏に組んで利根川を経由して江戸まで運搬された。

なお、絵図は高崎市指定重要文化財に指定されており、複製品が作成され、高崎市教育委員会文化財保護課で保管されている。

▼『川浦山御用木御伐出絵図』(高崎市所蔵の絵図から引用)



▲絵図に描かれている御会所



▲急峻な山に栈橋をかけたケヤキ搬出の情景



▲台伐法によるケヤキ伐倒の情景



▲造材の情景

あとがき

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

自粛生活が始まってからもう2年。皆さん体調はいかがでしょう？

昨年末、あちこちでイルミネーションがみられました。

「綺麗だなあ」と思い、コロナ禍の生活のなかにも工夫とアイデアが生まれているんだなと心が癒されました。

感染への不安がまだまだ続きそうですが、今年も元気に過ごしましょう。

マスク無しの日常が早く戻ってくることを祈ります。



(清水)